

## 池田市総合計画審議会 健康福祉・教育部会④ 議事要旨

日 時：令和4年2月1日（火）18：00～19：50

場 所：池田市役所 3階 議会会議室

出席者：(外部委員)

池上部会長

荒木委員、金子委員、眞田委員、田和委員、畑中委員、林委員、茂籠委員（50音順）

(内部委員)

岡田委員、石田委員、田淵委員

<事務局>

総合政策部 水越、SDGs政策企画課 岩下、川本

<関係部>

市民活力部 高木、福祉部 綿谷、子ども・健康部 藤井、病院事務局 衛門、管理部 亀井、教育部 大賀

傍聴者：0名

### 1. 開 会

事務局より出席者の紹介、開催方法について確認があった。

### 2. 案 件

#### (1) 第7次総合計画について

事務局より資料について説明が行われた後、次のように質疑・意見交換が行われた。

<部会長>

事務局の方から詳しく説明を聞かせていただいた。今日の審議ポイントとしては、施策の柱「子どもと大人の未来を育てるまち」と「いきいきと暮らし続けられるまち」ということで、この二点のシートについて過去の議論を反映していただいた形になっているのだが、その辺りについてお感じになったことを意見として伺っていくのでよろしくお願いたい。まずは「子どもと大人の未来を育てるまち」の4枚の施策シートについて、今の事務局のご説明に関するご質問やご意見を伺っていきたいと思う。何かご発言があるか。

<外部委員>

2の「子どもと大人の未来を育てるまち」と3の「いきいきと暮らし続けられるまち」でちょっとかぶる所はあるが、2の(1)「子ども・子育て支援の充実」のところで、確か部会の中で妊娠期からの子育て支援体制の充実のところで、父親の育児支援というか、父親の育児参画について併せてやっていかないと、母親だけにターゲットを絞ってやっていては結局目的を達成できないという話をさせていただいた。3の(1)の男女共同参画のところでも、女性側だけではなく男性側へのアプローチが結局はこういったところを実現

するのに非常に重要だという話を結構させていただいていたと思うが、あれだけ議論があつて入っていないということは、意図があつて入れていないと認識しているがなぜ入れなかったのかという経緯を教えていただきたい。

<部会長>

まずは「子どもと大人の未来を育てるまち」の「妊娠期からの子育て支援体制の充実」について答弁いただけるか。

<関係部>

3の取組の方針の②、主に女性の問題に関わる相談事業について、ご説明させていただく。現状としては、やはり女性相談というのが主であるというのが現状である。委員がおっしゃるように、将来的には男である女であるというのを抜きにした形には持っていきたいと考えていて、現状が先を見据えた表現ということで、主に女性に関わる相談事業を実施するとともに、性別に関わらない相談事業を含めたマイノリティのサポートの推進を図るという言い方に変えさせていただいた。ということで今までの議論を尊重させていただいた上での表現と考えている。

<関係部>

「妊娠期から子育て支援体制の充実」ということで、ここに父親のことが書いていないということだが、子育て世帯というところで一括りにしていると思っている。改めて父親のことだけ書くというと、なかなか書きづらいところがあり、やはりとりわけ母子に関しては充実していかないといけないというまだまだこれからのあるので、とりわけ母子という表現をさせていただいた。あくまでも子育て世帯という中に父親のことも入れているという表現の仕方ということで私どもは考えている。

<部会長>

いかがか。

<外部委員>

そういうことをこれまでしてきたので、父親にスポットがあたりず女性側に育児負担がいつているというのは現状で、そういったことを踏まえて、来年度4月に法改正がされて、男性の産休など国としても大きく方向を変えていく中、10年先の計画を立てている中で、父親が単語として出てこない計画、父親にとりわけスポットをあてることに違和感があるとおっしゃるが、母親はたくさん出てきてそこに違和感が無いのはそもそも現状をそのままいくことで成り立つと考えておられるからそうなるのだと思う。この計画を読むと、そもそも父親のところに課題感が無いと捉えてしまうので、実際に施策としてやれることというのは難しいこともあるのかもしれないが、少なくとも現状と課題、もしくはどこかに父親というキーワードを意識しているのだということは記載すべきだと思って何

回かお話はさせていただいていたので、ちょっとこのままだと意識されていないのだと私は捉えた。

<部会長>

それに対していかがか。

<関係部>

父親のことにに関してまったく取りざたしていないということではない。ただ施策としては子育て世帯ということで包み込みたいという思いがある。父親だけの施策というものはなかなか難しいものがあるので、やはり母親も含めた子育て世帯の施策ということで考えていきたいと思う。

<部会長>

その他の委員の中で、この件に関してご意見のある方はおられるか。

<外部委員>

私も同じような印象を持っている。これまでの議論は、父親、また父親と子どもでもいいのだが、その父子というところを明記することによってより気づきの部分であるなど、メッセージがあるのではないかと思う。少し表現を変えるだけでいいのかなと思うし、きちっと子育て世帯と言ったときに、当然父親が入るのだというのは、確かに修辞上そうかもしれないが、そのように考えられない人達、読者がいるから入れた方がよいのではないかという話であり、国会答弁的な話になってきているので、できれば男性というものをぜひ組み入れる方が、より先進的というと語弊があるが、より広く捉えた市の取組が示せてよりよいのではないかという印象を持っている。

<部会長>

男性の育児参加というよりも父親も親なので、そこのところをもう少ししっかりと表現していく方がいいのではないかというご意見、ずっと言ってきたと思うが、今後この辺りは変わっていく余地はあるのか。

<石田委員>

おっしゃるとおり、確かに役所的部分、わかりにくい表現と思われるが、ご指摘のとおりだと思う。少し表現を工夫し、主旨のとおり、次の全体会議までに考えさせていただきたい。もう一つ、2本目の施策の柱の(1)の部分についても表現の方を考えさせていただきたいと思う。

<外部委員>

今の話の中で質問だが、2本目の施策の柱の(1)の取組の方針①「妊娠期からの子育て支援体制の充実」というこのタイトルのもとにあるが、妊娠期からの子育て支援となる

と、妊娠されている女性の方である母と子どもが主体になっている状態の中で、ひょっとしたら父という書き方が必ずしも存在しているか存在していないかということに配慮されての地域子育ての支援とされているのか。委員の言うように配慮無しで欠如されているのは少し読みにくいと思う。単純に行政的な言葉で言うと、妊娠期からの子育て支援という、ここはあくまでも主体は妊娠されていた、または出産された女性の方と子どもが主体で、必ずしも父がいるかいないのかではなく、大きく含むと地域子育て支援になると感じた。ただ父という言葉を入れた方が本来の形になるのかなとも思う。どこが主体になっているのかが少し分かりにくいと思う。

<石田委員>

おっしゃるとおりで、この表題というか①のところを含め、包括的に読み取れるような表現をまた考えたいと思う。

<部会長>

10日の全体会議のところまでに、この部分の案を検討していただけるということなので期待したいと思う。

その他の部分でいかがか。

(意見等なし)

<部会長>

2本目の施策の柱の(1)の取組の方針①のところは話題に上がったが、このシートの中で何かおっしゃりたいことはないか。

(意見等なし)

<部会長>

2本目の施策の柱の(2)「学校教育の充実」の辺りの表現等はどうか。

<外部委員>

①「教育内容の充実」ということで、黒丸が1、2、3、4、5とあって、書いてあることは現在の学習指導要領を踏まえたことが書かれている。読めばそのとおり大事なことだと思うが、池田市らしさというか、池田市として何に特化するのか、重点を置いていくのか、その辺りがもう少し具体的だと特色が出ると思った。豊中市であっても箕面市であっても使えるような文言のような印象があって、今の時代ICTにもう少し特化するような教育活動や、英語もすごく大事にされているので、英語についてもアピールするなど、池田市の教育を受けるとこういう特色があるということが何か一つでも二つでも色が出てくると、実際学校でも何をやるのかとなった時に、ここに力を入れたらいいのだということが見えてくるのではないかなと思う。

<部会長>

委員から池田市らしさはどこにあるのだろうというような発言をいただいた。先ほども市外の人も池田市に住んでみたいと思っただけのような基本構想をというご説明があったと思うが、その部分の池田市らしさという辺り、すぐその通りになるというわけではないかもしれないが、別の委員もしくは担当部局から何かご発言いただきたいかがか。

<田淵委員>

本市の教育方針の中で、三つの柱という部分を謳ってきた。一つは英語教育、二つ目としては幼児教育の充実、三つ目としてはICT教育の充実。この辺りは三本柱として、次年度に向けての教育方針、主要施策などで、議会でもお示ししようと考えてはいるが、全体的な計画となると教育分野において色々な教育課題が山積しているのが現状なので、全体的にこの課題に対するあの課題に対するみたいな部分があり、それに向けての取組というのが散らばったような書き方になってきているのは事実だと思う。その辺りで池田市らしさというか本市の教育がこれまで力を入れてきたものをもう少し何か打ち出せるようなものがあるかどうか、少し記載の上でできるのかどうか検討したいと思う。

<部会長>

魅力的な池田を発信するのにとてもいい機会だと思う。

私がこの委員を受けた時に、池田市の良いところをたくさん知る機会になるかなととても期待をしていた。池田市に住みたいという若い人が増えてくるというのは子育て世代が増えてくることと思うので、その辺りのこういうところがとてもいいですよというところが前に出てくるといい計画になると思う。

その他、シート2枚目の(2)「学校教育の充実」のところで、何かご意見のある委員はいるか。

<外部委員>

これも前に議論になっていたと思うが、教育環境の充実の二つ目の取組の方針のところで、元々課題感として教員志望者が減少してきていて色々課題がある中で、能力を高揚させる育成や研修などをすることになっているが、職場環境を改善や、研修するにしても、教育現場により負荷がかかるような方向にならないような形で、教育の職場の魅力を上げるというニュアンスがあった方がいいのではと議論されていたと記憶している。この辺り反映はなされていないが、こういった議論で反映しなかったのかを教えてください。

<部会長>

先生方の職場環境を少し良くして教員志望者が増えて、子どもの教育が充実していけばいいという議論があったかということだがいかがか。

<関係部>

教育環境の充実ということで、様々な視点というか書き方があると思うが、確かにおっしゃるとおり、職場の魅力を上げるという中で、例えば池田市は早くから校務支援システムとして、ネット上で情報共有したり、掲示板であったり、指導要領の電子化などで負担軽減を行ってきた。教員同士のコミュニケーションを円滑に図り、市全体で共通の課題に対する取組も地道には積み重ねてきたこともあるので、こういった部分を何らかの形で書き込むことで、魅力ある職場環境に繋がる部分があると思うので検討したいと思う。

<部会長>

今朝の新聞で、小学校の教員採用の倍率が2倍にしかなくなってしまったということで、先生に対する若い方の期待感や職場としての魅力という辺りがもしかしたら薄くなっているのではないかと思った。池田市としてこんな先生にたくさん来てもらって、良い教育をしてもらいたいというカラーが出てくるともっと良くなると感じた。

<田淵委員>

先ほどのご指摘に関係部長が回答をされたが、教員の採用等については、近隣の3市2町で大阪府から人事権の移譲も受けていて、独自で採用選考も行っている。それに向けて私ども池田市教育委員会の方も、将来池田市の先生を目指してもらえ方を集め、教志塾で学ばれた方が実際池田市の先生方になっていただいているという事実もあるので、そういう採用の部分や、先ほど説明のあった校務支援システム、GIGAスクールに先立って先生方へのタブレットも配布も行っている。先生方が教えやすいような環境、電子黒板の配置などの準備もしているので、働き方改革というバーンとした打ち出しがいいのか、先生方が働きやすいような職場環境を順次整えてきたので、その先にまたそういうものを進めていきたいという記述がいいのか、少し預らせてもらえたらと思う。

<外部委員>

色々やっていただいていたのは聞いてはいたので、せっかくだったら良い取組というか、これまでしてきたことなども書きそれを更に進めるような、先生を支援していくというようなニュアンスが伝わると、この計画を読んだ教師の方は、何かやりなさいと言われていたのではなく、私達も支援してもらえているというニュアンスが伝わると、より教育の現場が良くなるのではないかと思った。今お話しいただいていたような内容がうまく反映されるといいと感じた。

<部会長>

少し時間も迫ってきているので、三枚目の2本目の施策の柱の(3)「生涯学習の推進と郷土愛の醸成」、ここはあまり変更がなかったところだと思うが、ご意見あればお願いしたい。

(意見等なし)

<部会長>

なければ、(4)「文化・芸術・スポーツ活動の推進」で、現状と課題のところや取組の方針の辺りで変更があったと事務局から説明があった。市民の取組のところでも変更があったがいかがか。

(意見等なし)

<部会長>

先ほど「男女共同参画の推進」のところでご意見がすでに出ているが、3本目の施策の柱「いきいきと暮らし続けられるまち」の(1)「人権と多様性を尊重するまちづくり」のところ、何かご意見はあるか。

<外部委員>

取組の方針のところの①の三つ目の人権擁護委員会というのがあるが、たまたま人権擁護委員をさせていただいているが、通称としては人権擁護委員なのだが、法務局はこの名前を使っていないと思う。たぶん人権・文化国際課の方もまだ把握していないと思うので、使ってもいい正式名称を確認した方が良くかなと思う。

<関係部>

その辺は確認させていただきたいと思う。

<部会長>

確認いただけるとのことです。よろしくお願いいたします。

先ほどの事務局からの説明で、現状と課題のところの包括的な支援体制の構築のところの、自殺防止のところ、そもそも少し唐突感があるのではないかということだったが、それに対して包括的な支援をしていくという観点からこの部分を残したいという説明があった。事務局の説明はもっともだとは思いますが、その辺り何か感じられることがあればと思うがいかがか。

<外部委員>

事務局の説明は納得がいくというか、なぜ自殺のことがここに書かれているかということは、この説明を加えていただいたところで、自殺の原因が多様であり色々なところで総合的にアプローチしなければならないということが理由だと分かった。ただなぜ突然ここに自殺が出てくるのか。議論の時は実際自殺が池田市で増えているのか、そういったここに取り上げなければならない理由が説明としては少し薄かったので、もしよければお聞かせいただきたい。

<部会長>

記載の場所がここだというのは理解されたが、池田市の課題として自殺防止をことさらにここに表現しなければならないのか、ということだと思う。

<関係部>

今回、この自殺予防というのを取り上げた理由ということだが、最近自殺件数が大きく増えているのかどうかというしっかりとしたデータは無いが、これまでは自殺対策について、言ってみればほとんど行政としてできていなかったということで、これからの新しい課題として触れさせていただいた。

<部会長>

いかがか。

<外部委員>

今まで取組が薄かった部分として今回新たに取り上げたというような表現があれば、なるほど、それで自殺なのだということが分かりやすいと思った。

<部会長>

ご検討いただければと思う。

(1)のシートで、多文化共生社会づくりというところで、外国人市民の表現やその辺りについて、何かお感じになることはないか。

<外部委員>

部会の時にもお話をさせていただいたが、外国人の女性、国際結婚の女性は、子育て生活などで孤独に陥りやすいというお話をさせていただいた。国際結婚の女性、母親に対する支援の文言が無かったので少し気になる。

外国にルーツがある子どもが日本の学校で増えている。国際結婚で生まれた子ども、外国にルーツがある子どもが多分学校の各クラスにいるのではないかと思う。そういう外国にルーツがある子どもに対する支援、勉強生活と心の支援、どういうふうを考えているか内容に触れていないので、部会の時に、例えば外国人の母親が、学校に行ってもらい話をしてもらおう。それを通じて外国にルーツがある子どもに対する支援になるし、先ほどの学校教育の分野では、人と外の世界を知る教育がどんどん減っている中で、そういう外国文化と触れ合う機会もあった方がいいと思い提言させていただいた。

これから国際結婚も増えてくると思うので、支援の仕方が10ヶ年計画の中に盛り込んでいただければ、非常に時代的な現状を反映している内容になるのではないかと考えている。

先ほど父親のことを入れて欲しいということをも切実に考えている。やはり国際結婚して日本で生活している外国人のお母さん達は、自分の家族以外で、自分の配偶者、旦那さんの支援が非常に不可欠だと自分も身を持って感じた。外国人、国際結婚のお母さん、

母親だけでなく、日本の母親たちは、配偶者、お父さんの支援が無ければ多分子育ての時には非常に苦痛になるので、子育ては夫婦一緒に力を合わせてやり遂げることなので、今の時代、ぜひ父親の子育てに関わる役割、何ができるか、支援の仕方、ヒントとしても盛り込んでいただけたら、池田市民、父親の育児参加としても励みになると思う。

<部会長>

国際結婚されたお母さんも、日本人同士で結婚して子どもができているお母さんも、どちらもやはり父親という存在は不可欠だということだと思う。

何か他にあるか。

<関係部>

今おっしゃられた外国人の女性、国際結婚の女性が孤独に陥りやすいであるなど、外国にルーツのある子どもさんについて、現状として国際交流センターで行っている事業としては、外国にルーツを持つ子どもの居場所事業、外国人相談窓口等々実施しているが、そういった国際結婚、外国の子供さんが増えているのは現状だが、それらの事業が満足出来るものであるのかというのは検討の余地はある。この四月にオープンするダイバーシティセンター、これは事業の継続だけではなく拡充していくことも考えているので、それに努めたいと思っている。その中でも色々対策を練っていきたいと考えている。

<関係部>

先ほど指摘やお話があったように、父親の子育てというのは私どもも十分認識しているので、文言等は整理させていただいて、その文言を入れさせていただくような形で修正させていただきたいと思う。

<部会長>

続いて、(2)「高齢福祉の充実」というところで、少し表現の仕方等が変わったということだが、これで十分な形になったか。いかがか。

<外部委員>

もともと池田市では力を入れてくださっている部分とっていて、あの時の話と更に詳しく数値的なものも入れていただいているので、とても池田市の現状が分かりやすくなっていると思う。あの時の議論では、もう少し池田市が本当にこのところに力を入れていて、できていることがたくさんあることを表現できたらいいというお話だった。少し控え目になっていると思うが、書いている中身がすごく具体的で充実しているということが表れているので私としては、ここはこれでいいと思った。

<部会長>

池田市の皆さんは控えめだと思う。もっと良いところをアピールして行って、しっかりとできているところもここで表現すべきなのかな分らないが、アピールをしてこんな素

晴らしい市だということをごんごん自信を持って外へ出していくという方向も良いのではないかと思う。発言されたことが現実かというと、表現されているということだったので、これでいいかと思う。

(3)「障がい福祉の充実」のところは少し雇用の促進という辺りで表現が変わっているがその辺りはいかがか。

(意見等なし)

<部会長>

シートとしては最後になるが、(4)「保健・医療の充実」というところだが、そのシートについてはいかがか。

(意見等なし)

<部会長>

私が読んでいて、時代といえば時代なのだが、これを10年後に見た時どうなのかなと思ったのが、現状と課題のところは、新型コロナウイルスの健康づくりの推進と生活習慣病の予防の四つ目だが、新型コロナウイルスの影響でフレイルが進行し、という辺りが現状としてはそうなのだが、5年経ったり10年経ったりした時に、もし何かそのフレイルが起こる原因がコロナに限定されたような書き方をすると、将来的に読んだ時にこの当時作られたのだなという感じがするのかなと思わず少し気になった。コロナをはじめとする高齢者の動かなくなるような原因になるようなことというような表現の方がもしかしたらいいのかなという感じを受けた。

シートのところのご意見色々いただいてきたところだが、資料の5で議論すべきところということで、資料の5の「まちづくりの進め方」・「評価に基づく進行管理」・「施策の重点化」の辺りで、何かお気づきの点やもう少し説明をしてほしい点などはないか。

<外部委員>

池田市のこのような計画においてはSDGsが非常に必要な柱であるというのは、皆さんの議論のとおりだと思うが、ここでの(1)「SDGsの推進」のところは書かれているところが、施策を進めるにあたってはゴールを意識するとともに、市民や事業者へのSDGsの理念の普及に努めますという形で書いている。市としての役割というかSDGsを推進していくところが記載されている訳だが、その普及だけにとどまっているように読めて、非常にもったいないと思う。もう少しSDGsというものを施策の柱として例えばゴールの達成であるなど、色々な事業をやっているという表現の方がより皆さんの取組がきちっと評価されるのではないかと考えている。少しおとなしい表現になっているので、ここはもう少し前向きに、もっとSDGsを推進しているのです。事業の柱としてやっているのです。施策を進めていくのです。という表現の方がいいと思う。何か啓蒙だけをしているような取り方になっているのはもったいないと思ったのでご検討いただきたい。

<部会長>

即答は難しいと思うが何かないか。

<事務局>

今回各施策にSDGsを紐づけさせていただいているので、表現方法についても推進するという方向性で修正の方を検討させていただく。

<部会長>

その他のところで、何かお気付きの点やお聞きになりたいことなどないか。

(意見等なし)

<部会長>

特にならなければこれが最後の部会となるので、率直な感想など一言ずついただければと思うが、どなたからでも結構だがか。

<外部委員>

先ほどのシートの中で一件気になったことがあったので、少し戻らせてもらってよろしいか。

2本目の施策の柱「子どもと大人の未来を育てるまち」の(4)「文化・芸術・スポーツ活動の推進」のスポーツの振興のところ、二つ目の黒丸で、最後に新たな指導者の発掘に努めると書いている。左の現状と課題のところから読み取ると、ニュースポーツやパラスポーツというところの新たな指導者と読み取っているが、先ほどの教職員の職場環境という話題も出ていてそれに関連するが、中学校でクラブ活動の顧問のなり手やそれを維持していくのがなかなか難しいという現状がある。例えば新たな指導者というところが、学校教育に関わっていくことを想定されているのか、もし想定されていなくてニュースポーツやパラスポーツということであるならば、これからの10年で学校教育におけるクラブ活動の支援は大きく見直される場所なので、新たな指導者が学校教育に関わっていくことを何か書き込めるのかどうかというのは、なかなか難しいところではあると思うが、何かお考えを聞かせていただけたらと思った。

<田淵委員>

今ご指摘のところは本当に本質的な課題というか、今後の中学校の部活動の在り方というところに対して貴重なご提言をいただいたと思う。中学校の部活動の在り方を考えていく時に二つ方向性があると思う。一つは現状の部活動に対して、顧問が担うということももちろんだが、顧問の負担軽減というような意味では外部からの指導者を充実させていく。もう一つの方向性としては、いわゆる地域移行といわれていることだが、地域で子ども達の活動の受け皿を作っていくというような方向性もあると思っている。ここに記載している指導者の発掘に努めるというその指導者の発掘という部分には私的には、そういう地域

で中学生の活動の受け皿となっていけるような人材というか、受け皿というか、そういうものに繋がっていくものであればいいのかなという思いがあり、ニュースポーツやパラスポーツの指導者の発掘という意味ももちろんあるだろうが、どちらかといえば私的にはそう読みたいと思っている。

現状池田市内でも、中学生のそういう活動されている方というのがあって、そこに中学生が行って活動している実態があるので、そういうものをもう一度しっかり調査して集約して今後の指導者の支援を行っていく方向性は大事だと思う。

<部会長>

よろしいか。

<外部委員>

やはり中学校の部活は先生方の負担がすごく大きな課題であり、世の中でも問題になっていると思うので、何かそこに一つ方向性というか形が見えてくると、そこは一つ池田市の売りになってくるのかなと思うのでよろしくお願ひしたい。

<部会長>

最後ご感想を一人ずつ一言で結構なので、名簿の順にお願ひしたいと思う。

<外部委員>

なかなかこういう色々な方とお話するというのはいない中で貴重な機会をいただけたと思っている。自分が発言する言葉も、自分の学校でも当然考えていかなければならないことなので、発言した以上何か学校にも還元していきたいし、池田市の学校と繋がっていくという取組、これからも続けていきたいと思う。貴重な機会をいただき、感謝する。

<外部委員>

本当に色々とお世話になった。我々委員の方から色々なことを申し上げて変更なり色々していただいたが、私も行政にも関わる人間として、なかなか、言うは易し行うは難しというところで、皆さんの苦労もたくさんあったのだろうと思う。ただ、我々委員としての発言というのは、池田市の行政に対する期待そのものなので、私の発言が少しでも行政の計画に前向きな影響を与えられたのであれば、この上の無い喜びである。本当にお世話になり、感謝する。

<外部委員>

最初にも申し上げたが、今福祉部の方と一緒に地域福祉計画を策定している。その根本となる総合計画に携わることができて、池田市全体を俯瞰することができたことは、非常に有意義な機会だったと思う。後半の計画策定にもいかしていきたいと思っている。一市民としては計画、かなり理想的なものができているなと思う。この中のどれくらいが実現するだろうなという疑問符も付きながらも、もしこの計画が実現できるのであれば、池田

市に住んでいることを誇りに思えると思うので、ぜひ一つでも多くの計画が実現できるように願いたいと思う。

<外部委員>

短時間ではあったが、感謝申し上げる。ここの会というのは施策を作る、もちろんそういうところではなく、本当にこれからの市政の在り方の方向性を色々審議できるところに参加させてもらったというのはとてもありがたいと思っている。そういった意味では我々委員の話、意見をしっかり聞いていただいて反映していただけたなと思い感謝している。今後市民が、又行政が努力することによって、この基本構想に則って可能性のある素晴らしい会議だったと思う。

<外部委員>

今回、外国人市民の一員として、この池田市の総合計画審議会の委員として参加させていただき光栄に思う。私は普段外国人として池田市で生活していることをあまり意識せずに普通にやっているのだが、自分のバックグラウンド、そういうのがあるので、もっと深く知る必要があるとお話しながら感じた。これから仕事も少し内部から見えたことなど、考えさせてもらったことも色々あって、外国人の方が普段何を考え、何に困っているのか、もっと見て聞いてあげるといふことの大事さという気づきもあった。これから池田市は外国人にとって、とても住みやすい快適なまちになってほしいと思い、今回私の発言が少しでもそういう将来、外国人にとって過ごしやすいまちになることができればいいと思う。感謝申し上げます。

<外部委員>

市民公募委員として参加させていただき感謝する。色々率直に思ったこともお話させていただいたが、私個人としては、池田市は非常に住みやすいまちであり、まだまだポテンシャルの高いまちだと思うので、課題もあるが池田の良いところをしっかりと市民にもアピールしながらよりそれを伸ばしていくというような、先ほどの議論の中でも、特に池田市の教育については良いところだし、市民としても非常に誇りあるという意識が高いというアンケートの結果が出ているので、そういったところが強く出れば、良いところをしっかりと見せていくといったような意味であってもいいのかなと思う。以前、私の想いを事務局の方にメールさせていただいたが、そういったところも何か良いところをしっかりとアピールするというのも大事だと思う。また引き続きよろしくお願ひしたい。

<外部委員>

大学生の枠として参加させていただいたが、大学生を送っている中、こういった会議に参加させていただくまでSDGsという言葉にあまり関わりがなく、どういうものなのだろうなという形から入らせていただいたが、皆さんの知識や経験や色々な話を聞かせていただきとても為になったと思う。感謝する。

#### <部会長>

私達、健康福祉・教育部会としての審議は4回目となる今回が最後となる。本部会では市民の代表として、様々な角度から委員の皆様にご議論いただいた。事務局からの説明にもあったが、この部会で出た意見が総合計画に現時点で反映されているもの、されていないもの、多少強弱があったかなと思う。この点については当部会には岡田副市長、石田副市長、田淵教育長、また担当部長の皆様の参加もあったので、このような反映されなかったご意見については、今後の分野別計画の策定や、事業の実施の際に参考にされて発表いただけるものと信じている。部会を代表して、ぜひご活用いただければと思うので、よろしくお願い申し上げます。

この部会で出された意見は、これから10年間の池田市がより住みやすい、住んで良かったと感じられるまちづくりを進めていくためのたくさんの種になると思う。一つ一つの種を行政だけでなく、私達部会の委員もそれぞれの立場で一緒にしっかりと育てていく努力を続けていくことも大切だと考えている。ぜひそれぞれの立場で一粒一粒埋めた種を大事に育てていきながらこの10年間を進めていきたいというように考えている。

皆様、お忙しい中ご参加いただき、また活発にご議論いただき感謝申し上げます。今後は部会でなく全体会議として、引続き審議が進むので今後もよろしくお願い申し上げます。

それでは進行を事務局にお返すする。

### 3. 閉会

事務局により、次のように事務連絡が行われた。

#### <事務局>

閉会前に今後の審議会の流れについて、ご説明申し上げたいと思う。

次回の審議会については全体会議を予定しており、その日時については事務局からメールでご連絡させていただいている通り、2月10日木曜日の10時からとなっている。次回の案件としては、各部会の4回目でもいただいたご意見を反映した第7次総合計画の基本構想及び前期基本計画をご審議いただく他、今後のパブリックコメントの実施に併せて行うキャッチフレーズの公募の手法や、中生意識調査の結果を示す予定である。またその開催方法については、この日もまん延防止等重点措置が適用期間中となることを見込まれるので、今回と同様にオンライン会議を活用した形での開催とさせていただく。

それでは以上をもって、池田市総合計画審議会、第4回健康福祉・教育部会を閉会させていただきます。

以上